

指導事例

※ 該当する項目を**囲み線**で囲ってください。

学 び の 場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級 その他（特別支援学校 小学部）		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・ 4・5 ・6年
指 導 場 面	授業 ・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・ 知的障害 ・ 肢体不自由 ・病弱・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教 科 ・ 行 事 名 等	自立活動		
タ イ ト ル	フットマークだるまさんがころんだ		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝敗にこだわり結果の受容が難しい。 ・ 夢中になると人との距離感が近くなりすぎる。 		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勝敗ではなく、みんなで協力して活動を楽しむ。 ・ フットマークを手掛かりに友達と適度な距離を保ち活動する。 		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ ソーシャルディスタンスを理解しにくい児童でも、視覚支援を用いて自然に密を避ける活動を行うことができる。 		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

○自立活動 「フットマークだるまさんがころんだ」 場所：体育館

・以下の図のように児童一人一人のコースを用意。児童はオニの「だるまさんがころんだ」に合わせてフットマークに止まる。うまく止まれなかった児童は、復活して最初からやり直せる。チームの児童、誰か一人でも点線を越えることができればチームにポイントが入る。その日の目標のポイントを達成したらお宝を獲得できる協力型活動ゲーム。

The diagram illustrates the activity setup on a grid. Rows are labeled B児 through F児. A vertical dashed orange line is on the right side. Black footprints are scattered across the grid. At the bottom, there is a blue mat and a wooden board labeled A児. A red O-ni character is positioned on the right side of the grid.

指導事例

※ 該当する項目を**囲み線**で囲ってください。

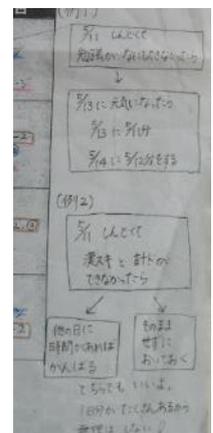
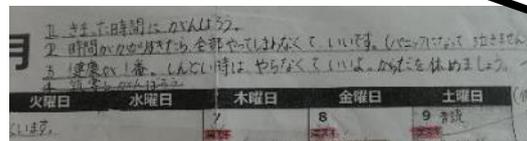
学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・ 5 ・ 6 年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・学校生活・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・ 病弱 ・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等	家庭学習		
タイトル	登校しない日の自宅学習課題の工夫		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	自分でスケジュールがたてられず、1度に大量に取り組もうとして、パニックになる。 手先のマヒのため、細かい作業が苦手である。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	計画的に、落ち着いて一人学習が進められる。 児童にあった方法で取り組むことができる。		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	学習を計画的に進めることができる。 毎日学習に取り組む習慣が継続できる。 休校後の学校生活にスムーズに戻るることができる。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

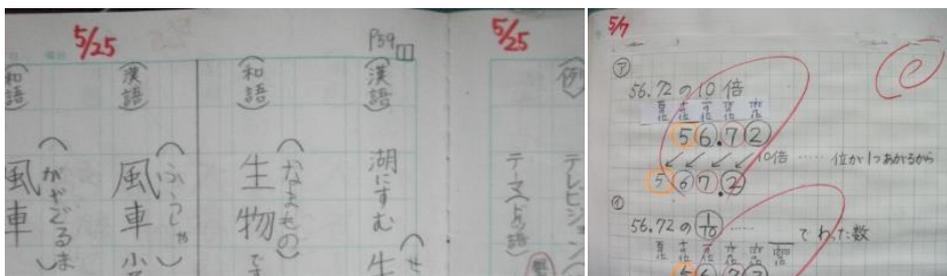
○何日に何をすることがわかるように、課題をカレンダーに記入。課題別に色分け。
【国語ノートを4ページ】【漢字ドリル23番】というふうに、具体的に提示。



学習のやり方や、スケジュール通り進められなかったときの対応の仕方も示してお



ノートやプリントには、学習する日にちを記入しておく。



指導事例

※ 該当する項目を**囲み線**で囲ってください。

学びの場	特別支援学級・通級による指導・通常の学級・その他		
校 種	小学校・中学校	学 年	1・2・3・4・ 5 ・6年
指導場面	授業・学級活動・学校行事・ 学校生活 ・その他		
障 害 種	弱視・難聴・知的障害・肢体不自由・ 病弱 ・言語障害・自閉症・情緒障害・学習障害・注意欠陥多動性障害・その他		
教科・行事名等			
タイトル	テレビ会議システムを使った支援		
児童生徒の障害による学習上・生活上の困難・課題	重度の心疾患で感染症による重症化のリスクが高いため、登校自粛の長期化によって起こる学校生活の空白。		
上記困難・課題を踏まえた指導の目標・配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・学校における学習保障、友だちとのつながりを維持すること。 ・心の健康を保つこと。 		
上記困難・課題を踏まえた感染拡大防止の取組	テレビ会議システムを使って担任と個別の学習をしたり、交流学級の授業に参加したりする。		

※ 以下に事例の内容説明を簡潔に記入ください。

学校のタブレット端末とWi-Fiを使って、児童の自宅のパソコンとテレビ会議システムでつながり、活用している。

- ・学級開きの際、交流学級にタブレットを置き、児童と顔を見ながら自己紹介をした。
- ・交流学級での授業をオンラインで受けた。学活では係決めに参加した。
- ・支援学級の担任とつないで、教科の個別指導をする。

